

日本の『村』と文学

——大江健三郎、柳田国男、島崎藤村を繋いで考える



プロフィール

宮崎出身。県文化賞受賞者。
著作『ひみつの王国 評伝 石井桃子』（芸術選奨文部科学大臣賞受賞/第34回新田次郎文学賞受賞/平成27年度宮崎県文化賞受賞/2016年度日本記者クラブ賞受賞）。『現代日本の小説』。『大江健三郎 作家自身を語る』（大江健三郎と共著）。『詩人なんて呼ばれて』（谷川俊太郎と共著）。『大江健三郎 全小説』（全15巻 講談社）の全巻解説を担当。

尾崎真理子氏は日本を代表する文芸批評家の一人で、読売新聞文化部長等を経て、現在は早稲田大学教授です。多方面の文芸批評の中でも尾崎氏が特に注目されているのは、大江健三郎文学への深い論考です。その最新の成果を「日本の『村』と文学」という演題でこのたび聞かせてもらうことになりました。尾崎氏の故郷宮崎での「村」体験も語られると思います。危機の時代の今こそ文学が大事です。その文学の力を感じさせてくれるお話を私も楽しみにしています。（県立図書館名誉館長 伊藤一彦）

日時

10月29日(土)

14:00～15:50(13:30 受付開始)

場所

県立図書館 2F 研修ホール

※感染症等の状況により Zoom 開催になる
可能性があります

定員

40名(要申込)

電話・メール・FAXにて受け付けております。
番号は下記↓のとおりです。

